

32 号

熱田高同窓会報

発行
愛知県立熱田高等学校
同窓会事務局
TEL(052)-652-5858

同窓会ホームページ

URL:<http://www.atsuta.gr.jp/>

熱田高校ホームページ

URL:<http://www.atsuta-h.aichi-c.ed.jp/>

目次

巻頭文 ----- 1

会長補佐

近藤かをり 26 回生(旧姓前田)

定時制の今 ----- 2

現状報告 教頭 小島 尚

年よりは昔のことを話したが

定時制 8 回生 岡田房江

同期会開催報告 ----- 3

18 回生・29 回生より

4 コマ漫画 17 回生 吉田 眞

がんばれ熱校生 ----- 4

恩師特集として

19 年間勤務した学校

佐野好宏

再デビュー ----- 5

平川 隆

邂逅 ----- 6

21 回生 鈴木矢代子

思い出深い熱田高校 ----- 6

榊原千賀子

今も古典を楽しんで ----- 7

18 回生 近藤早苗

時を経て同じ校舎に ----- 8

45 回生 笠井えりな

事務局だより ----- 8

パステル画

「神社の一隅」

11 回生 田中和枝 (旧姓竹内)

国体に参加して

新しい挑戦を通して

2 年 安藤聖華

デジタルホームカミングデーの

閲覧QRコード



同窓会のQRコード



正門前での3年生集合写真 (令和 7 年 8 月 17 日)

新しい制服への思い

会長補佐

近藤かをり 26 回生



今年の春、母校の制服が新しくなった。長年親しまれてきたセーラー服が姿を消す。私にとってセーラー服は、在学中の思い出そのものであり、友人たちと過ごした日々や行事の数々がよみがえる象徴でもありました。

しかし時代の流れと共に学校も変化していくものだと思う。生徒は自分の個性や好みに合わせて制服を選ぶことができるようになり、多様性を導入する社会の流れに沿った取り組みとなっています。

また、暑熱対策のためポロシャツの着用も認められることになった。新しい制服は現代的なデザインになり、これからの生徒たちにとって新しい歴史の一步となるでしょう。伝統を大切にしながらも、新しい風を取り入れて進化していく母校の姿に期待をしています。



第 3 の制服

定時制の今

現状報告

教頭 小原 尚



現在、高等学校への進学率は 99% に達し、生徒一人ひとりの入学動機や進学希望・興味・関心・学習経験、さらには生活環境に至るまで、その多様化が進んでいます。

こうした背景の中で、定時制・通信制課程は生徒 1 人ひとりのニーズに応える柔軟な学びの場として、重要性をますます高めています。

本校定時制課程は、今年度で開設 60 年を迎えました。4 月には 30 名の新入生を迎え、全校生徒 78 名がそれぞれの目標に向かって日々努力を重ねています。

今回は、定時制の課外活動についてご紹介させていただきます。

昨年度、同好会として発足したバレーボール部が、正式に部活動として認められ、活動を開始しました。授業後の 21 時から 30 分間という限られた時間ではありますが、部員たちは熱心に練習に取り組んでおり、夜の体育館は生徒たちの活気と笑顔に包まれています。

部活動は、心身の健康の増進に加え、学年間を超えた交流や人間関係の構築を通して、責任感や連帯感を育む場でもあります。全日制と同様、定時制でも、部活動は生徒 1 人ひとりの成長を支える大切な時間になっています。

10 月 4 日に、城北つばさ高校において「第 65 回愛知県高等学校定時制・通信制生徒生活体験発表会」が開催され、県内の定時制・通信制課程の各校から代表者 1 名が発表を行いました。



中日新聞社賞を受賞した村上千晴

本校から 1 年生の村上千晴さんが出場し、自身の体験を表現豊かに語って見事予選を突破、本選では、4 位に相当する「中日新聞社賞」を受賞しました。

また、9 月 12 日（金）から 10 月 8 日（水）まで愛知県図書館で開催された「令和 7 年度愛知県定時制通信制生徒作品発表会」では、4 年生



愛知県図書館長賞を受賞した加藤咲夏子の作

の加藤咲夏子さんがイラスト作品（題名・クリスタルハウス）を出品し、最優秀賞にあたる「愛知県図書館長賞」を受賞するなど、素晴らしい成績を収めました。

ご紹介したように、定時制課程においても、生徒 1 人ひとりが自らの可能性に挑戦し続けています。部活動や各種発表の場を通して、生徒の成長を支援する場面が多く定時制の意義と可能性を改めて感じています。

年よりは昔のことを話したがる

定時制 8 回生 岡田 房江

私が熱田高校を卒業したのは、1975 年（昭和 50 年）3 月。定時制は 4 年間ですが、2 年生を 2 回経験したので卒業したのは 20 歳でした。もちろん普通に 4 年間で卒業する人もいましたが、同級生の年齢はバラバラでしたから 2 年生を 2 回在学しても気になりませんでした。

今も印象に残っているのは、中京病院や労災病院の看護婦の人達が熱田高校に通学していたことです。今はどうなのかわからないのですが当時は、看護婦資格は准看護婦と高看護婦がありました。高看護婦試験を受験するためには高校卒業の資格が必要だから通学していると言っていました。看護婦の仕事は夜勤があり、私のように昼間だけ働いているよりも大変だったと思います。

高校卒業は私にとっても大きな目標でした。朝から働いて夕方 5 時半ごろだったと記憶しておりますが 1 限目が始まり、2 限目との間に給食がありました。その給食時に間に合わず、給食のおばちゃんから残っているパンを貰ったものです。

当時はコンビニも無いし、第 1 にお金が無かったから、すぐ助かったことを覚えています。何を勉強したのか覚えていないけど、ただただ卒業したいと思っていました。5 年間の歳月をかけて卒業できたことは私の人生の中では大きな収穫でした。

昔の事ばかりでなく今の話もしましょう。卒業後、熱田高校とは縁の無かった私に、定時制の同窓会長から連絡があり、定時制同窓会長囑を引き継いで欲しいとの申し出がありました。同級生でもあり、しかも

病気で嘱を続けられないと言われ、やむをえず承知しました。

会長の仕事として、卒業式前日の同窓会入会式で挨拶をするよう言われ、卒業以来、初めて熱田高校へ登校しました。「びつくりしました」それは私にとって定時制高校とは、事情があつて昼間の高校へ通学ができない生徒が進学しているものと思つていたからです。

しかし、ほとんどの生徒が働いていませんでした。時が過ぎ時代の変化は当たり前ですが、定時制高校だけは昔のままだ思つていた自分がそこにありました。

多様化している現在、定時制高校も変化しているのだと時代の動きをつくづく感じています。定時制は必ずしも就労目的ではなく、自分のスタイルに合った環境を求めて選択する人が増えているのだと。



(会長補佐)

現在の定時制の
ある日の給食献立

同期会開催報告

古希祝同期会

18 回生 和田 訓幸

令和 4 年に行つた高校卒業 50 年同期会には 75 名の参加でしたが、11 月 1 日の同期会は、最後の同期会と位置つけたこともあり、89 名の参加がありました。懐かしい級友・部活のメンバーと昔話に花が咲き、非常に楽しい時間を過ごしました。2 時間では物足らず 2 次会へは、52 名が集まりもうひと騒ぎでした。同期会とは別に日を改めてランチ会を企画している女子グループもありました。



会場：コートヤード・バイ・マリオット名古屋にて

還暦同期会

29 回生 野崎 時源

11 月 3 日、恩師 7 名をお迎えして、名古屋マリオットアソシエーツホテル会場で、第 29 回生の還暦同期会を 100 名を越える仲間が集つて開催しました。笑顔と笑い声に包まれた賑やかな会となりました。

約 42 年前に同じ時間を過ごした仲間との再会は、60 代のスタートを切るにあたり、人生を改めて考えるよいきっかけになりました。

回生幹事の皆様へ

同期会開催助成金は、令和 4 年度から新ルールになりましたからホームページをご覧ください。

高校訪問はは

17 回生 Makoto Yoshida



(獣医)



がんばれ熱高生

今回は恩師特集として、6人の先生方に原稿を依頼しました。

佐野好宏先生は、平成6年から19年までの14年間日本史教諭として、平成27年から29年の4年間は定時制教頭として。計18年間お世話になりました。誠実・実直な先生です。平川隆先生は、平成5年から11年までの7年間英語教諭として教鞭をとられました。自由人で豪快、人間味のある人物です。鈴木矢代子先生は平成18年から29年の12年間国語教諭として教鞭をとられました。榊原千賀子先生は平成7年から22年まで16年間養護教諭として務められました。おらかな人柄で愛らしく、生徒は何事も相談しやすかったと思います。近藤早苗先生は平成8年から18年まで11年間国語教諭として教鞭を取られました。知的で歌がうまく、忘年会の時は最後職員全員が輪になって校歌を歌うのですが、指揮はいつも彼女でした。令和4年に着任された英語科の笠井えりな先生は、人工芝化された母校を見て、驚いたとおもいます。先生の授業を受けたと聞いて、年月の流れの速さに僕はびっくりした。

(文責 11回生 世界史 谷澤伸)

18年勤務した高校

佐野 好宏 先生



卒業生でもない私が「がんばれ熱高生」を書いていいのか迷いましたが、執筆させていただきます。

平成6年度から19年度までの14

員として歓びを感じていたからだと思います。

また、担任13回のうち、7回は学年主任を兼ねさせていただきました。学年主任としては、「勉強も部活動も行事も欲張って全部やってほしい。行事は当日に楽しむだけでなく、準備や片付けも含めて全力で向き合ってほしい」という思いを学年団の先生方と共有して、日々を過ごしていました。関わった同窓生に佐野学年の感想を機会があれば伺ってみたいです。

部活動は、軟式野球同好会の顧問でした。男女硬式テニス部とともに住友軽金属の施設を借用しながら、校外で活動を行いました。野球経験がないうえに運動の苦手な私は技術指導はできませんでしたが、皆さんが活動するためには顧問が必要のため、私なりに精一杯、部活動とむき合いました。部活動にはクラスとは別の居場所があり、目票に向かつて日々努力を重ねる部員の姿に立ち会うことができたのは、教員冥利につきると本当に思っています。

平成27年から4年間は、定時制教頭として勤務し、生徒を支援する視点の大切さを学びました。外国にルーツを持つ生徒・中学時代に不登校だった生徒が、登校してコミュニケーション力を育みながら、卒業後

に進学や就職していく姿には、教育の原点を感じました。

現在、私は春日井高校の校長を務めています。春日井地区には、熱田高の吹奏楽部で尽力された前田（清水）先生が春日井東高校の校長、複数の主任を務められた三溝先生が春日井西高校の校長として勤務されており、不思議な縁を感じています。春日井地区で勤める私たちは、同窓生および在校生の活躍で県内屈指の受験生を集める熱田高校に負けなように、そして熱高生と同じように「学校が楽しい」と目を輝かして話してくれる生徒を育てることに全力を注いでいます。最後になりましたが、熱田高校の卒業生および在校生の皆様の更なるご活躍をお祈りいたします。

(春日井高校校長)



熱田高校社会科教諭/先生方の名前が分かりますか 前列1番右が佐野先生

再デビュー

平川 隆 先生



以前は夏ともなると五角形のプールで水泳の授業があった。各学年 10 クラスで、1 棟 2・3 階には 3 年生の教室があった。熱田高校はサッカーが校技であり、そのため軟式野球同好会は周辺の会社のグラウンドを借りて練習していた。

転任初年度、文化祭のスローガンは「こんなのはじめて」であった。我がクラスはゲートを担当した。



文化祭（恐竜ゲート）

恐竜の足はガソリンスタンド経営の保護者から提供していただいた。また、ある時はミュージカル「Garden for You」の直前練習のため、社教センターでリハーサルを行った。団結力のあるクラスで「先生に同伴して

いただけるなら打ち上げ旅行も……」と保護者にお墨付きをいただくほどであった。残念ながらゴーサインを出さなかったので幻の企画となった。中庭でタイ米を使ったパエリアの調理販売も懐かしい思い出である。「ちとせ会」は、本校の所在地に因んで発足した職場の囲碁同好会である。



囲碁会誌：創刊号

会員はなぜか数学と英語に偏っていた。飛び入り参加をしてくださった学校長は国語だった。年 3 回（春・夏・冬）の長期休業に下呂・北陸を中心に行った合宿は 40 回を数えた。最初は 1 泊 2 日だったが、物足りないというメンバーからのリクエストを受け 2 泊 3 日に格上げした。1 日 10 局を謳った旅行はなくなったが、月 2 回の例会は今でも続いている。会誌「ちとせ」の題字は高段者で達筆だった故会長を思い起こさせる。

懐かしい先生方が並ぶちとせ会の合宿
1 番右が平川先生

23 才と 25 才までフランスに遊学した。スタンダールの名作「赤と黒」の舞台ブザンソンで 1 年半、街全体が絵になるパリで半年生活した。

ヨーロッパは日本より面積が小さい国々が多く、なおかつ陸続きなので移動が楽である。主としてユーレイルパスで旅行した。宿代を浮かすために北欧では車中泊で 3 泊 4 日連続夜行列車で移動した。特に印象に残るのは、ミシュラン地図を片手にスペイン・ポルトガルを 28 日間かけてヒッチハイクしたことだ。さすがに北アフリカでは決行しなかった。仏語はモノにならなかったが、異国の経験は大きな財産となっている。

ヒッチハイク（アリカンテ）
前列右から 2 番目が平川先生

二年前本校にお世話になることになった。水はけの悪い土のグラウンドが緑鮮やかな人工芝になり、屋外行事も実施しやすくなった。化粧直し中の校舎はあちらこちらで仕切りが出来、迷路のようになっていた。生徒には好評かもしれないが、マイカーを使用するホワイトボードはしっくりこない。よってチョーク塗れになっても黒板が使える 3 年生の教室に愛着を感じる。

生徒の人懐こさは昔のままだ。今年度の 1 年生から新しい制服が導入された。オールドファンとしては残念でならなかったが、新旧 2 種類の制服を購入する女子も多いと聞く古きも新しきも許容する熱田が好きだ。

邂逅 (かいこう)

21 回生 鈴木矢代子 先生



昨年のことだった。I さんからの連絡。「K さんが大病をして、あの頃のみ」と言っている。一度、集まろう。「あの頃」とは、熱田で過ごした高校時代のこと。もう半世紀がたっている。「K さん」とは、彼の結婚式に参列して以来、会うこともなかった。「みんな」が微妙。確固とした輪郭がないのだ。私は演劇部で活動して



演劇部の舞台発表

いたが、人手不足で大変だった。

そんな時に助けてくれたのが同じ弱小文化部で活動していた文芸部や新聞部などの人たち。部室も近く、先輩の人脈などで何となく集った面々。大道具作りを手伝ってもらったり、公演当日に照明の操作をもらったり、いろいろ助けてもらった。もちろんそれだけではなく、よく話し、よく遊び、多くの時間を共有した。

I さんの実行力で昨秋集った十人程。あまり多くなると、話が分散してしまうとの配慮から絞った人数だった。時々会っている人から、卒業後初めて会う人までいる。金沢から駆け付けた人もいる。皆それぞれの半世紀を過ごし、様々なことがあったと思うが、その大半はあまり知らない。それでも全く違和感なしに高校時代さながらのおしゃべりが始まった。思い出話に花が咲く。話は尽きず、空いている喫茶店を探して、二次会まで。皆でたどたどしくグループラインをつなぎ、次回に備えた。帰途、とても清々しい気持ちに満たされたのを覚えている。

発端となった K さんは、思いの外元気で、周囲は拍子抜けした程だった（良かった！）。それどころか、『むふふ新聞』といって社会・健康・身辺雑事まで内容豊富な四頁にも及ぶ新聞を一人で執筆してもう二回も

送ってくれた。（彼は新聞部だった。）

さて、今年は趣向を変えようと I さんからの連絡。格別暑い夏の昼過ぎ、屋上のビアガーデン。それにもめげず老人たちが集まった。その後もグループラインのおかげで、

「ライブをするから聴きにきて！」

「テニスをしない？」

「今度は T さんも呼ぼうか？」

「次は金沢で一泊しようか？」……老人たちの夢は尽きない。

思い出深い熱田高校

榎原 千賀子 先生



教員としての第一歩は定時制高校の養護教諭でした。やがて、熱田高校への赴任が決まった時、卒業生の先生から「鼻毛がよく伸びた」と冗談を言われ小さな不安が芽生えました。周囲にはゴム工場等があり独特な臭いを含んだ空気が漂っているのだろうと想像しました。不安と希望を胸に正門をくぐると、満開の桜が私を迎えてくれました。あの日の光景は今も鮮やかに心に残っています。

養護教諭として千人を越える生徒の検診をミスなく行うことが目標でした。歯科検診は武道場で実施。待機中の生徒が突然バク転をする、

歯科医が注意。そして「こんなことで怒って情けない」と反省されました。悪いのは生徒と私です。

購買には人気のパンがありました。丸くて中に生クリームが入っているパン（今もあるのかなあ）。ある日、男子生徒が「顎が……」と来室。顔を見たら口が閉まりません、あのパンを食べようとして顎がはずれたそうです。丸くて「ぶくつ」としたかわいくて美味しいパンを、嬉しそうに頬張る姿が目につかび、つい笑ってしまいました。ごめん。すぐに病院に行くね。

保健室には多くの生徒が来室します。様々な悩みを語る生徒の話を若かった私は真つ向から向き合い、アドバイスをしました。

ある日、バレー部で上手くいかないと、さめざめと泣いた男子生徒に、偶然来室したサッカー部顧問が声をかけました。話が盛り上がり、サッカー部に入部、そして守護神として活躍。運も味方してくれたのですね。

私は女子テニス部顧問をしており、仕事などで行き詰まるとテニスコートで石ころを拾って心を整えました。ある時、コートの全面改修が行われ、石ころのないテニスコートに生まれ変わった。毎日ローラーをかけ、テニスコートを大切にしました。冬場は隣にある中華料理店の灯

りを頼りにみんな頑張って練習をしました。そのおかげか県大会に出場することが出来た。今は元テニス部キャプテンが私と同じように保健室に勤務しています。」

男子テニス部県大会出場。すみません、女子は県に行けていませんでした。女子部は残念だけど、みんなで頑張った伝統は、続いていきます。ありがとうございます。



保健室（熱田高校）で撮った1枚
1 番右が榊原先生

これは私の熱田高校での思い出の話です。皆さんの思い出は今から始まります。校歌の一節「若人の力なり」のように、それぞれの場所でも強く歩んでいく皆さんを、これから応援しています。

あの頃に出会ったすべての生徒・先生方、保護者の方々に感謝しています。ありがとうございます。

今も古典を楽しんで

18 回生 近藤 早苗 先生



創立 20 周年の頃、高校時代を過ごし、夢がかなって高校教員となり、50 年

年の頃には在職しておりまして。振り返ってみると、熱田高校では高校 3 年間も、教員としての（主に生徒会を担当してもらいました）11 年間も、自分自身のやりたいことを思う存分やれる幸せを満喫できたと思います。

国語教員として「源氏物語」や「徒然草」などを教えながら、「古典を 10 代で読んで終わりにしてしまうのはもったいない。面白さがわかるのは年を重ねてからではないか。定年後は大人と一緒に古典を楽しみたい。」と考えるようになりました。

その後他校へ転勤し、やたら忙しくなる毎日に「このまま定年まで働く」と、新しいことを始める体力・気力がなくなってしまう。」と思うようになり、定年を待たずに退職し、第 2 の人生を始めました。

放送大学で学んだり、本を読んだりして、自分の知識を更新するのを楽しく、自分が面白いと思ったことを、わくわくしながら人に伝えることが出来るのが嬉しくてたまりませ

ん。試験も成績もなし。でも学び自体が楽しいと言ってくださる生徒さんたちに囲まれ、楽しい毎日を送っています。80 代の方に「戦争中私たちは勉強したくてもできなかった。今が一番幸せ。」などと言っていたけると教師冥利に尽きます。

名古屋での集客は厳しく（朝日カルチャーセンターも 9 月でなくなり、また講座が 1 つ減）にぎわっているのはもっぱら市外の教室です。先日東海市市民大学の皆さん 30 余名（平均年齢 73 歳）で百人一首のパロディーを作って遊びました。なかなかの出来ですので紹介します。読んで一緒に笑ってください。



カルチャーセンターの授業風景



越前市 紫式部公園にて

朝パンに昼うどんでのしのぶれと

あまりでなとか米の恋しき

財布見れば千々にものこそ悲しけれ

今夜のおかず何にしようか

長らえばまたこの頃やスキルアツ

もなくてもつまずけるとは

老後貯金行く末まではかたければ元

気なうちの命ともがな

棚の奥うち入りに見れば断捨離の

箱の奥にも塵は降りつつ

心にもあらでうき世にながらえは

不安なるべき 老後の金かな

カラスらの鳴きつる方を眺めれば

ただバラバラのゴミと残れる

トランプは移りにけりないたずらに

右往左往の首脳たちかな

天つ風戦の種火吹き閉じよ

地球の平和永くとどめむ

時を経て、同じ校舎にて

45 回生 笠井 えりな 先生



熱田高校の入学式の日、新入生は教室ではなく体育館に集合しました。すでに席についていた

クラスメートと出席番号を確認し合
い、「よろしく」と挨拶を交わして、
私の高校生活が始まりました。学業
成績は人並みでしたが、友達と楽し
い日々を過ごしました。3 学期の行
事である合唱祭では、ピアノ伴奏を
務めたことが良い思い出です。また、
嫌なことや体調がすぐれない日があ
っても「学校は行くのが当たり前」
と考えていたので、皆勤を貫きまし
た。卒業式で3カ年皆勤賞として名
前を呼ばれたことを今でも誇りに思
っています。

進路を考える中で、中学時代の英
語の先生が授業中にしてくださった
ホームステイの経験談に強く惹かれ
海外への関心から英語を専攻するこ
とを決めました。教育実習で母校の
熱田高校に戻った際には、入学式の
日に出席番号を確認し合った友人が
数学科の実習生として来ていました。
母校での教育実習は懐かしさもある
中、同級生と励まし合いながら充実
したものとなりました。



教育実習生一同（熱田高校会議室）
後列右 2 人目が笠井先生

教員として初めて赴任したのは
西三河の学校でした。単線の駅を降
りると、コスモス畑や田んぼが広が
るのどかな風景が迎えてくれました。
学校は厳しい管理教育のもと、国公
立大学への合格者を多く輩出する進
学校でした。熱田高校出身の私はそ
の雰囲気の違いに驚きました。しか
し、真剣に努力する生徒たちの姿に
刺激を受け、私自身も指導に熱が入
りました。異なる地域での経験は貴
重であり、初任校が西三河の学校で
よかったと感じています。

その後、2 度の人事異動を経て、
現在の熱田高校で勤務しています。
赴任当初は校舎の改修工事の最中で
年々きれいに整備され、グラウンド

も人工芝に生まれ変わりました。高
校時代に工場があった跡地には商業
施設が建ち、周辺環境も便利になっ
ています。

これまで前任校を含めて3年
生を担当することが多く、進路を実
現していく生徒たちの姿を見るのが
この仕事の醍醐味です。初任者研修
で講師にいただいた「学ぶことをや
めたときは、教員をやめてください」
ということばを胸に、これからも生
徒と共に学び続けていきたいと思っ
ます。



新しい挑戦を通して

2 年 安藤 聖華



私にとって国民スポ
ーツ大会参加は3度
目になります。競技は
アーティスティックス

イシミング（シンクロ）です。全力
を出しきり達成感を得られました。
この経験は私にとって、この先の人
生の大きな糧になると思います。結
果だけでなく努力の過程を大切にす
る意味を改めて感じる事ができま
した。支えて下さった多くの皆様に
感謝し、なかでも特に家族への感謝
の気持ちを忘れず、この経験を心に
刻んでいきたいです。



「神社の一隅」（パステル画）

ひっそりと静まり返る
大晦日の深夜にはお店がずらりと並び
初詣の人が列を作る

11 回生 田中和枝（旧姓竹内）